

平成18年度に締結した随意契約の点検・見直しの状況  
【同一所管公益法人等との契約】

(法人名：国立大学法人熊本大学)

件数	契約の相手方の商号又は名称及び住所	公共工事の名称、場所、機関及び種別又は物品役務等の名称及び数量	契約担当者の氏名並びにその所属する部局の名称及び所在地	契約を締結した日	契約金額 (単位：円)	契約種類	随意契約によることとした理由 (具体的かつ詳細に記載)	見直しの結果	講ずる措置	類型区分	備考	
1	(社)化学情報協会 東京都文京区本駒込 6-25-4	データベース(SciFinder Scholar)の利用	契約担当役 国立大学法人熊本大学 事務局長 佐藤 隆 熊本市黒髪2-39-1	平成18年4月3日	8,743,350	随意契約	本製品販売の唯一の代理店であり、他社との競争を許さないため。(会計規則第35条第1号)	その他	随意契約によらざるを得ないもの	12		
2	(社)日本アイソトープ協会 東京都文京区本駒込 2丁目2番45号	放射性廃棄物の集荷・処理・処分の業務 一式	契約担当役 国立大学法人熊本大学 事務局長 佐藤 隆 熊本市黒髪2-39-1	平成18年12月4日	5,537,763	随意契約	本業務については、日本国内において履行可能な業者は左記業者以外に競争を許さないため。(会計規則第35条第1号)	その他	随意契約によらざるを得ないもの	18	単価契約 可燃物 50L一缶25,830円 外	
3	熊本県赤十字血液センター 熊本市長嶺南2丁目 1番1号	赤血球M・A・P「日赤」 血液200mlに由来する赤血球 以下26点	契約担当役 国立大学法人熊本大学 事務局長 佐藤 隆 熊本市黒髪2-39-1	平成18年4月3日 (平成19年1月16日 改定)	430,737,934	随意契約	厚生大臣協議厚生省発表会第193号(昭和55年12月16日)により、調達すべき相手方が日本赤十字社又は地域ごとの地方公共団体の血液センター等に特定されているため。(会計規則第35条第1号)	その他	随意契約によらざるを得ないもの	1	単価契約 〔複数年契約2年〕 赤血球M・A・P 「日赤」血液 200mlに由来する 赤血球 6,036円	
4	(社)日本アイソトープ協会 東京都文京区本駒込 2丁目2番45号	放射性医薬品 放射性 <sup>99m</sup> Tc骨形成注射液 以下81点	契約担当役 国立大学法人熊本大学 事務局長 佐藤 隆 熊本市黒髪2-39-1	平成18年4月3日	96,780,075	随意契約	本院において使用予定の放射性医薬品の取扱業者を調査したところ、放射性医薬品はすべて左記業者が窓口となり販売しており、日本国内における唯一の販売業者である。今回の購入に当たって確実に業務を遂行できるのは左記業者以外に競争を許さないため。(会計規則第35条第1号)	その他	随意契約によらざるを得ないもの	18	単価契約 放射性 <sup>99m</sup> Tc骨形成注射液 18.5Mbcq 20,580円 (ADD 18.5Mbcq 20,580円)	
合計					541,799,122							#REF!

(注1) 本表は、平成18年度に締結した支出原因契約であって随意契約(各国立大学法人の定める少額随契限度額以下のものを除く)のうち、「同一所管公益法人等」(「特殊法人等」、「独立行政法人等」、「当該独立行政法人の主務省と同一の所管に属する公益法人」及び「再就職者がいる民間法人」をいう。)との契約を記載する。

なお、特殊法人等とは、特殊法人又は認可法人を指し、独立行政法人等とは、独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第2条第1項に規定する独立行政法人又は国立大学法人法(平成15年法律第112号)第2条第1項及び第3項に規定する法人を指す。「公益法人等」には、医療法人、学校法人、社会福祉法人、特定非営利法人、中間法人、協同組合は含まない。

(注2) 平成18年度より前に契約を締結した長期継続契約(18年度には支払いのみが生じており、契約行為がないもの)については、以下のとおり整理する。

電気、ガス、水道、電話通信役務・・・調査対象(1回の支払につき1件とする)  
複数年契約のリース契約、コピー機の保守役務等・・・18年度に契約していなければ、調査対象外

(注3) 単価契約の場合は、契約金額欄に調達総額(複数年契約の場合は、契約期間全体の調達総(予定)額)を記載し、備考欄に単価契約である旨及び単価を記載する。複数品目等を1契約にて調達している場合は、代表的な品目等の単価を記載する。

(注4) 「契約担当者の氏名並びにその所属する部局の名称及び所在地」には、原則として契約時の担当者等を記載するが、これにより難い場合は適宜の時点の担当者名として差し支えない。

(注5) 随意契約によることとした理由は、説明責任を十分に果たせるよう具体的かつ詳細に記載すること。

(注6) 契約種類は、競争性のない随意契約については「随意契約」、企画競争又は公募による随意契約については「企画競争・公募」と記載すること。

(注7) 見直しの結果は、「問題あり」、「見直しの余地あり」又は「その他」に分類すること。引き続き「企画競争・公募」とする場合は、「その他(引き続き企画競争・公募を実施)」と記載する。

(注8) 講ずる措置は、「20年以降、当該事務・事業の委託等を行わないもの」、「競争入札に移行」、「企画競争を実施」、「公募を実施」又は「随意契約によらざるを得ないもの」に分類し、( )で移行時期等を補足すること。ただし、見直すことは決まっているが現段階で確定的に記載できない場合は、「競争入札若しくは企画競争に移行」等の記載とすることができる。

なお、平成18年度に不落・不調随意契約であったものについては、「20年以降、当該事務・事業の委託等を行わないもの」に該当する場合を除き、「競争入札に移行」に分類すること。

(注9) 「類型区分」欄には、「講ずる措置」欄において「(競争性のない)随意契約によらざるを得ないもの」としたものについて、別添の「随意契約事由別 類型早見表」の類型区分(1~12)に該当する場合はその番号、該当しない場合には以下のいずれかに区分の上、該当番号を記載する。

- ・緊急の必要により競争に付することができない場合「13」
- ・競争に付することが不利と認められる場合「14」
- ・秘密の保持が必要とされている場合「15」
- ・競争に付しても入札者がいないとき、又は再度の入札をしても落札者がいない場合「16」
- ・特例政令に相当する規定に該当する場合「17」
- ・その他、1から17並びに19の類型区分に分類できないものについては「18」
- ・見直し後においても、なお、包括条項(バスケットクローズ)に該当する契約とする場合については「19」